

# 浜松協働学舎 支える会だより

2014年6月15日発行

NO.54 〒433-8108 浜松市北区根洗町681番地の5

☎053-430-0596

浜松協働学舎を支える会 代表 小林琴代

## 工房ゆうオープン！

## 浜松市西区に新しい障がい者福祉拠点が誕生しました！



### 施設の概要

名称 工房ゆう  
種別 生活介護（定員 20名）  
設置運営主体 社会福祉法人ひかりの園  
所在地 〒431-1112 浜松市西区大人見町3419-5  
電話 053-570-1310 fax 053-570-1311  
開所日 月～金（土曜日を実施する場合もあり）  
開所時間 サービス提供時間 9：30～15：30  
職員体制

管理者1 サービス管理責任者1 嘱託医1  
生活支援員・看護師 常勤換算数で1.7人以上

■送迎サービスを行います。

■食事を提供します（給食設備あり）。



工房ゆう竣工式  
備し、また安心、安全に過ごすことができるよう、トイレや浴室など各所にバリアフリーの工夫がされている」と、施設の特徴について説明があり

本年三月に通所施設工房ゆう新築工事が無事完了し、三月二十日に完成を祝う竣工式を開催しました。竣工式では、まずカトリック浜松教会の山内神父による祝詞式が厳かに執り行われ、施設の完成に感謝するとともに、「施設を利用される人たち、またお世話にたずさわる人たち、運営にたずさわる人たちが互いに助け合い、愛するよろこびを分かち合い、平和と愛のみなざる建物であるように」と、参列者とともに祈念しました。竣工式には、地元自治会、西区民生委員児童委員協議会、国会議員、県会議員、市会議員、福祉関係者の方々をお招きして、多くのお祝いの言葉をいただきました。たくさんの方のご支援に心からお礼申し上げます。

工房ゆうは、身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度重複障がいの地域生活を支援するという目的の施設です。竣工式には、新しく工房ゆうの管理者に就任した鈴木秀明所長から「車いすを常時使う重度重複障がいのある人が、ゆったりと過ごせるような広い活動スペースが確保されていること、嚥下障がいのある人のための特別食を提供できる厨房を完備し、また安心、安全に過ごすことができるよう、トイレや浴室など各所にバリアフリーの工夫がされている」と、施設の特徴について説明があり



ました。

工房ゆうは四月一日から事業を開始し、現在二十一名の方が利用されています。新しい大人見町の土地にしっかりと根を下し、地域から信頼されるような福祉拠点となるよう、関係者一丸となって総力を傾けていきたいと思

# 浜松協働学舎は、おかげさまで25周年を迎えました。

## 25th Anniversary



根洗学園を18歳で卒業した人たちの通う場所として根洗作業所が開設されました。当初は6名の仲間たちでスタートしました。

1981 (昭和58) 年

1981 (昭和58) 年  
浜松協働学舎建設のためのチャリティコンサート



浜松協働学舎開設に向けて



1989 (平成元) 年  
根洗作業所と青葉の家の複合施設・浜松協働学舎開設。  
根洗学園から独立した新しい施設としての運営がスタートしました。



1994 (平成6) 年 遠州根洗窯オープン



1994 (平成6) 年  
パン、クッキーのお店もオープン。



1999 (平成11) 年  
工房めい開設  
根洗寮の年中活動の場としてつくられました。

1999 (平成11) 年  
グループホーム・ラポール根洗開設



2005 (平成17) 年  
根洗寮の地域移行の取り組みとして「自活訓練ホーム・すてっぷ」を湖東町に開設し、翌年グループホームとして運営するようになりました。以後、根洗寮の地域移行が進みました。



2007 (平成19) 年  
障害者自立支援法本格施行。  
根洗作業所と青葉の家は、法的な福祉サービス事業である「生活介護」に移行しました。

障害者自立支援法施行

2008 (平成20) 年  
プレハブ等で雨露をしのいでいた工房だんを新築しました。個室を供えた新しいタイプの日中活動の拠点が誕生しました。



2009 (平成21) 年  
ケアホーム (グループホーム) ほっぷ新築。湖東町から根洗町に移転しました。



障害者改革推進会議開始

2010 (平成22) 年  
工房めいを増築。新棟では手作りせんべいの生産を始めました。



2011 (平成23) 年  
ケアホーム (グループホーム) こもれび開設。



障害者基本法改正

障害者差別解消法成立

2011 (平成23) 年  
相談支援事業所などを浜松市西区に開設。浜松市障害者相談支援事業を開始。



前史	1989 浜松協働学舎スタート	1995	1997	2000	2003	2005	2006	2007	2009	2010	2011	2012	2013	2014
----	-----------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------



1974 (昭和49) 年  
学校に行けない子どもたちの療育の場を保障しようと、浜松市根洗学園が開設されました。当時は学籍のない学齢期の子供たちが集まりました。昭和50年からは、施設内学級が開設され、毎日校区の小中学校の先生たちが根洗学園に通うようになりました。

1995 (平成7) 年



バブル崩壊後、就職ができない人が増え、作業所のニーズが高まりました。陶芸とパンづくりを仕事にした第二根洗作業所がスタートしました。

1993 (平成5) 年



平成元年にできた浜松協働学舎はすぐいっぱいになってしまいました。養護学校(当時)卒業後の希望が多く、ニーズに応えるため、三方原墓園の東側に第二青葉の家を開設しました。敷地の確保には根洗町自治会の方々の温かいご支援をいただきました。



1995 (平成6) 年  
手作りクッキー「しまうま倶楽部」の生産が本格的に始まりました。

根洗寮開設当初の「工房だん」プレハブ棟の作業所でした。→



2003 (平成16) 年  
根洗作業所が、社会福祉法による「小規模通所授産所」として認可され、法内化しました。

支援費制度開始

障害者権利条約国連採択

まったく補助を受けず、任意で開設していた工房だん、工房めいも「生活介護」として法的事業と認められました。

1997 (平成9) 年  
「親亡き後」のための居住の場をつくろうと浜松協働学舎根洗寮ができました。全室個室、ユニットケア、職住分離と、当時としては新しいタイプの入所施設でした。



2008 (平成20) 年  
平成6年にできたふれあいショップがリニューアル。



2007 (平成19) 年  
青葉の家新築移転。青葉の家の利用者の増加に伴って、旧静光園跡地に青葉の家とケアホーム(グループホーム)すてっぷの複合施設を建設して、それぞれ移転しました。旧すてっぷの建物にはケアホームほっぷを開設しました。



3月11日、東日本大震災発生。浜松協働学舎では5月～9月に被災地障害者センターに15名の職員を派遣しました。



2012 (平成24) 年  
根洗作業所、新築移転。



障害者総合支援法施行

障害者権利条約批准

2012 (平成24) 年  
ラポール根洗新築移転。今までの建物を利用してケアホーム(グループホーム)ばれっとを開設。



2014 (平成26) 年  
浜松市西区に生活介護・工房ゆう開設。  
平成26年度施設整備事業として、グループホーム「コムニオ湖東」着工。平成27年4月オープン予定。

# 浜松協働学舎二十五周年に寄せて



浜松協働学舎根洗寮寮長

高木 誠一

本当にあつという間の二十五年でした。私もいつの間にか還暦も過ぎてしまいました。根洗学園のときから付き合っているご利用者もそろそろ五十歳代に入ろうとしています。ご利用者とともに長いおつきあいをさせていただいている親の会の方々も、ずいぶん高齢になりました。

六人の仲間が始まった根洗作業所ができたのが昭和五十八年でした。当時は、根洗学園の運動場に

プレハブの作業棟をつくって、働くための場所を確保しました。作業所は、次々と根洗学園や養護学校を卒業して行く人たちを受け入れたために、二年目には十八名、三年目は二十名を超える大所帯になりました。いつまでも根洗学園を借り続けるわけにもいかず、資金のめども立たないままに新施設の建設を決めたのが、昭和六十二年の春でした。親の会と職員が一丸になって、バザーやコンサートや募金活動を展開しました。

当時のひかりの園理事長の故山田修先生が「浜松協働学舎」と命名した施設は、当時の小規模講座所である根洗作業所と重度障害児者生活訓練



した第二青葉の家は、障害のある仲間たちと地域の方々が直接交流できる場所として、今その役割を続けています。陶器のお店やパンのお店には絶えず地域の方々

第二青葉の家に棟式新築工事



があり、協力して支え合うからこそ、豊かな人間たちの地域社会が生まれるのです。二十五周年を迎えるにあたり、私たちは「浜松協働学舎」の名前に誇りを感じ、もう一度「協働」の意味を問い直し、新たな歩みを始めたいと思います。

昨年、新築移転後空き家になっていた初代浜松協働学舎の建物が、法人の新事業計画のために取り壊しになりました。さら地になった建物跡を見て、浜松協働学舎の歴史の移り変わりをしみじみ感じました。

浜松協働学舎が産声を上げたのは小規模作業所の黎明期、まだ静岡県にも数えるほどしか作業所のない時代でした。当時の作業所を取り巻く運営環境はとも劣悪なものでしたが、先の見えない経営環境の中でもご利用者や職員たちの目はいつも輝いていたように思います。それは施設の零細さ貧しさゆえに運営には地域の協力は不可欠で、自然の成り行きとして地域住民や地域の作業所との連携が深まり、活気にあふれた地域コミュニティが形成されていったからであると感じています。

根洗作業所所長

深見 誠

その後、浜松協働学舎は地域ニーズの高まりの中で、複数の種類の異なる施設からなる複合施設に発展していきま

したが、いつも身近に地域の人たちの支えがありました。時代は流れ福祉制度は良くも悪しくも大きく変革を遂げましたが、新しい時代にあっては私たちの運営の軸足はしっかりと地域に根差し、地域から必要とされ愛される施設運営を目指して、今後も取り組んでいきたいと思っています。



ホームである青葉の家の二つの施設が複合した建物でした。特に、どんなに障害が重くても利用を拒まない青葉の家には、養護学校を卒業する重度障害のある人たちの希望が殺到しました。浜松協働学舎開設二年目には、いつべんに施設が手狭になってしまいました。そこで、地域のニーズに 대응するために、平成五年には第二青葉の家を開設しました。

第二青葉の家を建設するときは本当に苦労しました。不動産業者が紹介した候補地は立地条件はよかったのですが、隣接住民の理解が得られませんでした。困っていたところに根洗町自治会の役員の方々が支援の手を差し伸べてくださいました。当時の故荒川憲一自治会長は「反対されてまで他の町に行くことはない。根洗町でおやりなさい」と、施設の敷地の提供を町内の人々に呼びかけてくださいました。その結果、「どうぞうちの土地を使ってください」と四人の方からお申し出をいただきました。

この時の根洗町の皆様の暖かいご支援があつてこそ、今の浜松協働学舎があるのだと私は考えています。四つの候補地からバス停が一番近い場所を選んでお借りすることになり、建設計画が再スタートしました。当時は、開発許可や農地転用も静岡県に許認可権があつた時代で、要件はとても厳しく、手続きには二年かかりました。難産の末誕生



青葉の家所長

犬塚 淳

平成元年（一九八九年）念願でありました根洗作業所の新築移転に伴い、併設されたのが、「青葉の家」（静岡県単独補助事業 重度障害児者生活訓練ホーム／現在は生活介護）です。

当時は知的に重い障がいと身体との重複障がい、そして強い行動障がいや併せ持つ利用者さんの受け皿が未整備で、市内では青葉の家とあとか所の事業所のみでした。必然的に学校卒業後の進路先として一躍脚光を浴びることになりました。前理事長山田先生の『障がいに重い軽いはない。保護者の強い希望があれば受け入れなさい』という言葉が、今でも鮮明に覚えています。

保護者との二人三脚。あれから二十五年。長く苦しい無認可時代。それゆえに利用者さん達との関わりでは楽しさは倍増でした。二泊三日のバス旅行や毎年恒例の三岳山の登山。川遊びや合宿体験。散歩途中で野イチゴを摘んでジャムづくりなど、楽しい思い出がよみがえります。

生産活動は、針金を加工して作るハンガー班や杉板を焼いて作る鍋敷などの木工班から始まり、平成二年には自動車総連様から陶芸窯やろくろ一式の寄贈を受け、さつそく六畳のプレハブを建てて、三名の利用者で急遽陶芸班を立ち上げました。勤務終了後に高木前所長と共に陶芸教室に通う日々を懐かしく思い出します。この陶芸班が現在の「遠州根洗窯」に繋がっていききました。

平成五年には第二青葉の家竣工。パンづくりの得意な職員も入り製パン班も立ち上げました。利用者増に伴い平成

が訪れてくださっています。

浜松協働学舎では、その後も、第二根洗作業所、浜松協働学舎根洗寮、ラポール根洗、工房めい、すてつぷ、ほつぷ、こもれば、ぱれつとと、毎年のように根洗町内に福祉施設を建設してきました。建設をすすめる度に地元の皆様の深いご理解とご支援をいただき、町内の街角街角に作業所やグループホームがあり、まさに地域に溶け込んで日々の活動や暮らしが営まれています。人々を孤立させたり排除するのではなく、すべての人を社会の構成員として包み支え合うことの理念を「インクルージョン」と呼びますが、根洗町ではすでにインクルーシブな地域が実現しているといえるのではないかと私は思うのです。

浜松協働学舎の「協働」とは、共に働く・協力する・共同演ずる・合作する・共同するなどを意味します。コラボレーションと言ひ換えた方が分かりやすいかもしれませんが、人は皆違うのです。異なるからこそ、それぞれに役割や使命があり、協力して支え合うからこそ、豊かな人間たちの地域社会が生まれるのです。二十五周年を迎えるにあたり、私たちは「浜松協働学舎」の名前に誇りを感じ、もう一度「協働」の意味を問い直し、新たな歩みを始めたいと思います。

静岡県自閉症協会との出会いも、とても貴重な財産となりました。その当時はまだ『自閉症』（今は自閉症スペクトラムといいますが）の概念が職員たちに浸透せず、対応に苦慮していたところ、自閉症協会の研修会に参加させていただきTEACCHを知り、「目から鱗が落ちる」とはこういう事なんだと感じたものでした。現在でも良きパートナーとして青葉の家の運営を支えていただいています。

福祉の流れは激動の時期を迎え、支援費制度、自立支援法、総合支援法へと移り変わりました。青葉の家は、平成十九年四月に法定施設に移行して大きな転機を迎えました。利用者さんがようやく法律によって守られるという大変意義深い年となりました。この際、青葉の家・第二青葉の家・第二根洗作業所を統合して単一の事業所「青葉の家」として再スタートしました。

取り巻く環境はめまぐるしく変化して来ましたが、ひとりひとりのご利用者としてしっかりと向き合い支援する軸は常にぶれてはいけなさと考えています。青葉の家も二十五歳。利用者さんもしっかりと生産活動を通して立派に社会参加を果たしてきました。

求められるニーズも年々多種多様化し課題も山積みですが、浜松協働学舎の青葉の家として、ひとつひとつ解決に向けて努力していきたく考えています。



根洗作業所生活支援員



梶田恵里花

生まれも育ちも千葉県木更津市で、三月に結婚して浜松市に引っ越してきました。木更津と比べると浜松は近くにお店が沢山あることに感動しています。カフェでまったりしたり、スイーツを食べることが好きなので、ぜひオススメのお店があれば教えてください。ご利用者の笑顔を大切に、心に寄り添った支援を心掛けていきます。

青葉の家生活支援員



開高志

市内の他事業所で事務職として勤務していたので、久々の現場勤務にドキドキ状態の弱冠？四十一歳です。利用者様と色々な体験をしていきたいと思います。過去、現在の経過やエピソードを踏まえつつ、新たな歩みを支援していきます。

青葉の家生活支援員



猿田真友紀

私は専門学校を卒業し、社会人一年生です。学校に通っている時よりも家を出る時間が遅いので、ゆとりがすぐあります。私の趣味は音楽を聴くことですが、実は「ジャニーズ」好きです！これからご利用者と楽しく過ごしていきたいと思っています。

### 青葉の家地域交流事業 春のやきものまつり



三月十五日に、第二青葉の家で春のやきものまつりを開催しました。晴天の中、大勢の地域の方が来て下さり、たくさん並んだ陶器やパンをはじめ、初登場の「青葉うどん」も大盛況でした。クッキーやせんべいなど学舎の自主製パンや楽器演奏なども、春のお祭りに花を添えてくれました。第二青葉の家の常設店舗では、陶器や焼き立てパンなど皆さまをお待ちしています！



### 遠州根洗窯 秋のやきものまつり

10月11日(土) 10時～  
第二青葉の家(三方原墓園東)



## 赤い羽根共同募金の受配報告

浜松協働学舎根洗窯 プラストチラー 1,404,000円(受配金額 975,000円)  
プラストチラーとは、アツアツの料理もハイスピードで冷却・凍結する冷凍庫で、調理したときのおいさをそのまま保存できます。いつも新鮮な美味しさを提供できるようになりました。

工房めい 15人乗りワゴン 3,287,705円(受配金額 1,862,000円)  
通所施設の工房めいには30名のご利用者が日々通っています。たくさんの方が乗れるワゴン車できめの細かい送迎ができ、施設外の活動も広がります。

相談支援事業所まど 福祉車両 2,290,000円(受配金額 1,224,000円)  
相談支援事業所まどでは、ご利用者の福祉サービス事業所や医療機関への見学や相談に同行する機会が多くあります。車いすのまま乗れる福祉車両の導入で、ご利用者の社会参加の幅が広がりました。

地域の皆様の善意に感謝申し上げます。



## 浜松協働学舎 新人職員の紹介 よろしくお願ひします

青葉の家生活支援員



青葉の家生活支援員

山口裕大

お酒もタバコもみませんが、浜松まつりが大好きな二十六歳男子です。以前は別法人の生活介護の施設で三年勤めていました。少しでも早く仕事を覚えて、作業や利用者の方との関わりを大事にしていきたいと思っています。

吉井優実



学生の頃に何度かボランティアをさせていた。希望していたところで働くことができ、とても嬉しく思っています。ご利用者に寄り添い、毎日楽しく登所していただけるように元氣いっぱい頑張りたいと思います。未熟者ですが、一生懸命支援していきます。

青葉の家生活支援員



大野志保

浜松にきて二十一年が過ぎましたが、なかなか「米沢弁」が抜けません。こんな私ですが、これからも浜松協働学舎の一員として誇りを持ち、常に「おしよしよ」の心を忘れず、みなさんと共に歩んでいきたいと思っています。

※御賞詞名「米沢の言葉で、感謝やありがとうという気持ちを表します。」

工房ゆう生活支援員



堀尾佳乃子

趣味は食べ歩き(椎茸以外は何でも好きです♡)、特技はテニスやバレエ(踊るバレエではありません)、元気で明るい女の子です。まだ慣れないことがたくさんありますが、皆さんと仲良く生活出来たらいいな...と思っています。

根洗寮生活支援員



紅野綾菜

生活支援員としてご利用者と関わり、慣れがスタートしたこの頃ですが、自分の未熟さと、社会人の責任の重さを痛感しています。その一方で、ご利用者との日々のコミュニケーションや支援の中で多くの癒しを頂き、毎日笑顔のある充実した日々を送っています。

根洗寮生活支援員



黒瀬ひなり

毎日変わるご利用者の様子に目が回る思いですが、反面その笑顔に励まされながら頑張っています。生活支援員としてはまだまだ未熟な私ですが、少しでも早く安心出来る支援が出来るよう勉強していきたいです。

根洗寮生活支援員



池原愛美

私らしい支援を見つけていきたいと期待を持つと同時に、この仕事の難しさは今も痛感しています。支援者としての立場は、いつでも優しく見守るだけではなく、時に寄り添い、時には導く、時と場に応じたご利用者それぞれにあった支援をすることだと思います。

工房めい生活支援員



梅木芳貴

ゴールデンウイークの家族旅行で長時間三歳の双子を抱っこし、その日の夕方に全身が筋肉痛となった事で「まだまだお父さんは若い！」と家族に自慢し、自分にも言い聞かせております。浜松協働学舎に関わるすべての方々に愛されたいとされる人間になりたいと思っています。宜しくお願い致します。

### 浜松グリーンライオンズクラブよりタオルをいただきました



浜松協働学舎根洗寮に対し、浜松グリーンライオンズクラブよりたくさんのタオルが寄贈されました。浜松グリーンライオンズクラブでは、年賀に寄せられたタオルを会員の皆様から集めて、毎年春に根洗寮に届けてくださいます。4月23日に尾崎順司会長他2名の役員の方が根洗寮を訪れ、ご利用者に直接タオルを手渡してくださいました。タオルは生活の必需品ですので、施設ではとても重宝しております。浜松グリーンライオンズクラブの皆様、本当にありがとうございます。

浜松協働学舎を支える会代表交代のお知らせ  
発足当初より支える会の代表を務めてきた足田勝子代表は5月末日で退任し、私こと小林琴代が新代表となりました。足田前会長と同様、引き続き浜松協働学舎を支える会へのご支援を心からお願ひ申し上げます。

浜松協働学舎を支える会代表 小林琴代

### 平成25年度浜松協働学舎を支える会会計報告

収入の部					
科目	中区分	決算額A	予算額B	増減A-B	備考
寄付金収入		2,390,000	2,924,000	66,000	
	会費収入	1,475,000	1,300,000	175,000	会費+延725人
	寄付金	915,000	1,024,000	-109,000	一般寄付
雑収入		233,682	202,000	31,682	
	バザー収入	231,551	200,000	31,551	友愛広場・やきもの祭りりょうせい
	雑収入	2,131	2,000	131	預金利息
合計		2,623,682	2,526,000	97,682	
支出の部					
科目	中区分	決算額A	予算額B	増減A-B	備考
一般物品費		3,557	30,000	-26,443	事務用品
印刷製本費		182,970	200,000	-17,030	機関紙印刷代・封筒代
役員費		174,285	170,000	4,285	郵送料
交通費		48,000	50,000	-2,000	しましま利会、友愛広場、浜松協働学舎
雑費		72,708	100,000	-107,300	中元・歳暮・団体会議(ゆめ園等)
小計		481,512	630,000	-148,488	
特別会計繰入金支出		840,000	840,000	0	
	助成金	840,000	840,000	0	施設運営費助成
予備費		0	1,056,000	-1,056,000	
支出計		1,321,512	2,526,000	-1,204,488	
当年度繰越額		1,302,170	0	1,302,170	

ご支援ありがとうございました。今後もどうかよろしくお願ひします。